

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
開竅剤 涼開剤 1		
<p>あんぐうごおうがん 安宮牛黄丸</p> <p>温病条弁</p>	<p>清熱開竅・豁痰解毒</p> <p><主治> 熱邪内陷心包、痰熱壅閉心竅 高熱、煩躁、意識障害、うわごと、喉に痰がつまる、舌質が紅絳、舌体が短縮、舌苔が黄で乾燥、脈が滑細数などを呈す。 中風昏迷・小児驚厥</p> <p><病機> 温熱病の熱陷心包（熱閉）による意識障害である。 熱邪が心包に内陷して神明を擾乱すると同時に、熱邪が津液を煎熬して発生した痰濁が心竅を蒙閉し、煩躁、意識障害、うわごとが生じる。熱盛のため高熱があり、痰濁が壅阻するので咽でゴロゴロと痰の音がして呼吸が粗く、舌の絡脈を阻塞すると舌の短縮がみられる。舌質が紅絳、舌苔の乾燥、脈が細数は熱盛傷陰を、舌苔が黄、脈が滑は痰熱内盛をあらわす。 中風昏迷（脳血管障害による意識障害）で熱痰を呈するもの、小児驚厥（熱性けいれんと意識障害）などは、いずれも熱盛で痰濁阻滯を伴っており、熱閉という病理機序が類似している。</p> <p><方意> 心竅蒙閉には芳香開竅を、熱盛には清熱解毒を、痰濁閉阻には祛痰開泄をそれぞれ用いる。 清心解毒、豁痰開竅の牛黄、開竅清心の麝香、清心涼血、解毒の犀角が主薬である。瀉火解毒の黄连・黄芩・山梔子は、牛黄・犀角を助けて心包の熱毒を清し、芳香開竅、通竅開閉の竜腦・麝金は、牛黄・麝香を助けて開竅する。朱砂・真珠・金箔は鎮心安神、除煩に、雄黄は牛黄を補助して豁痰解毒に、それぞれ働く。全体で清熱解毒、豁痰開竅の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方（安宮牛黄丸）は熱陷心包の営分証に用いるものであり、清心涼宮の清宮湯と共に服用して豁痰開竅を補助する。 本方（安宮牛黄丸）と至宝丹・紫雪丹はほぼ同様の効能をもつ「涼開の剤」であり、温熱病の竅閉神昏に有用であるところから「三宝」と称されている。いずれも清熱解毒、開竅止瘧の効能を備えているが、本方（安宮牛黄丸）は清心豁痰に、至宝丹は開竅醒神に、紫雪丹は止瘧熄風にそれぞれすぐれている。 熱陷心包に陽明腑実を兼ねる場合には、安宮牛黄丸2丸を溶いて大黃末9gと調整し、まず半量を服用し、効果がなければ再服する。これを牛黄承気湯という。</p>	<p>牛黄・麝金・犀角・黄芩・黄连・山梔子・雄黄・朱砂各 30g・竜腦・麝香各 7.5g・真珠 15g・金箔衣</p> <p>粉末を蜜丸にし、金箔で包んだ成薬（1丸3g）、大人は1日1～2丸、甚だしければ3丸まで服用する。子供は1/2丸、効果がなければ再度1/2丸を服用する。</p>